

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1 施設名	仙台市原町児童館	
2 指定管理者	特定非営利活動法人MIYAGI子どもネットワーク	
3 指定期間	令和4年4月1日～令和9年3月31日	
4 施設の利用状況	《利用者数》 令和4年度 35,778人(前年度比 124.3%) うち のびすく宮城野利用者14,157人(内訳 ひろば12,507人 一時預かり1,650人) 令和3年度 28,776人 うち のびすく宮城野利用者9,273人(内訳 ひろば8,159人 一時預かり1,114人) 令和2年度 25,625人 うち のびすく宮城野利用者8,548人(内訳 ひろば7,615人 一時預かり933人)	
	《事業》 ・ 児童に健全な遊びを与え、その健康を増進し、情操を豊かにすることを目的とした児童厚生施設としての事業	
5 収支の状況	《費用》 ()は前年度決算額 ・ 指定管理者に支払った費用 66,096千円 (62,397千円) ・ その他市が負担した費用 0千円 (0千円)	
	《収入》 ・ 使用料収入 3,872千円 (2,673千円) ・ その他収入 10千円 (3千円)	
6 利用者の声	《実施状況》 ・ 利用者アンケート、児童館運営懇談会、児童クラブ保護者会を実施。	

二 管理運営に係る評価（モニタリングシートの結果によって評価）

評価分野	所見	評価
I 総則	「児童館ガイドライン」等に基づき、設置目的を踏まえた施設運営上の基本方針を定め、職員への共通理解を図るとともに、館内掲示等で利用者にも周知している。職員の倫理保持・服務規律遵守については、研修や会議、チェックシート等で確認する取り組みを行っている。また、地域の特性やニーズを踏まえながら各事業に取り組み、施設目的の達成に努めている。	33/33
II 施設の運営管理体制	職員の配置や業務内容の共有、開館の実績、経理書類の作成、個人情報の保護等について適切な管理体制が構築されている。また、各種マニュアルの整備、施設内外の点検、毎月の避難訓練等の実施により、利用者の安全に留意した運営に取り組んでいる。	30/30
III 施設・設備の維持管理	日常的・定期的な点検や清掃により、建物・設備・外構等が適切に維持管理されている。備品や鍵の管理も適切に行われているほか、施設内外の巡回や仙台市環境行動計画に則った取り組みも実施されており、安全で快適な環境が保たれている。	24/24
IV サービスの質の向上	名札の着用、児童館だよりの発行、ホームページの更新による利用情報の提供等、利用者が利用しやすい環境づくりに努めている。また、各種研修会への参加を通して職員の専門性を高めているほか、意見箱の設置、アンケートの実施等で利用者のニーズを把握し、施設運営に生かすなど、サービスの質の向上に努めている。	28/28
V 施設固有の基準	児童クラブにおいては、子ども達が安心して過ごせる生活の場としてふさわしい環境の整備と安全面の配慮が行われており、家庭や学校と情報共有を図り連携した育成支援に努めている。また、乳幼児向けの交流の場を工夫するなど、子育て家庭を支援するとともに、子育て支援クラブをはじめとする地域組織・団体・住民・関係機関との連携、相互交流を図りながら児童館の運営に取り組んでいる。	25/25

三 評価総括

《指定管理者（特定非営利活動法人MIYAGI子どもネットワーク）による自己評価》
<p>開館から10周年目の区切りの1年として、お誕生祭（館祭り）を開催。日頃よりご協力いただいている子育て支援クラブや児童クラブ保護者会、民生委員児童委員等の地域の方々と共に祝いをする事が出来た。</p> <p>児童クラブは本館・サテライトのサービス水準均一化を基本として運営を行った。定例行事の他、保護者会主催の「おいでよ児童館」では保護者が児童と一緒に運動遊び等を楽しみ触れ合うことで交流を深めた。館外活動「飛び出せ児童館」では榴岡公園での自然体験や地下鉄、JRの利用体験を通して社会経験を得る事が出来た。</p> <p>地域交流推進事業として、原町商工会とのハロウィンパレードや中央市民センター祭りでのダンス発表、クリスマスイルミネーション点灯式でのハンドベル演奏等、子ども達が仮装や演奏等を行う自己表現の場を設定した。地域から認めてもらえる環境を作ることで、参加者の満足度を高めることが出来た。関係機関と共に行った乳幼児親子向け「ウェルカムひろば」や宮城野区民祭り実行委員として「おやこひろば」を出店。地域関係機関と館外での活動も連携して実施した。</p> <p>のびすくとしては、コロナ禍での利用制限が年間を通してある中、利用者のニーズ把握を行い児童発達支援センター、家庭健康課と協働で療育ひろば「カンガルーひろば」を定例行事として実施。地域相談へ7件繋げることが出来、発達に不安を抱える保護者の方から「不安が和らいだ」との声が聞かれた。また、利用者支援相談員（のここ）や保育心理士、看護師資格を有する職員等の相談事業にも力を入れ、多様な相談に対応した。繰り返し相談をされる方もおり、相談者にとって心の支えになっていることが実感出来た。</p> <p>児童館・のびすく共に感染防止対策をとりながらの事業実施となったが、利用者の安心安全を第1に、年間で計画した事業については予定通り行うことが出来た。</p>

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>児童健全育成事業においては、子どもだけで初めて児童館を利用することに対するハードルの高さを感じ、低学年親子を対象とした行事を土曜日に開催した。親子で来館し児童館について知ってもらうことで、安心して自由来館を利用してもらえることにつながっており、利用者目線に立って事業における問題点を把握し、解決するための取組みを行った点が評価できる。</p> <p>地域交流推進事業においては、地域の特性を生かし、多くの機関と連携して運営を行った。特に、毎月行われる宮城野地区、原町地区の民生委員協議会の定例会に参加し、児童館の運営状況のお知らせや協力等の確認を行っている。それらの積極的な取組みが、両協議会の協力のもと行われている、「グランパと遊ぼう」や「将棋大会」の行事や、行事の際の乳幼児の見守りの協力につながるなど、世代間交流の機会を提供している。</p> <p>放課後児童健全育成事業においては、遊びの環境や職員体制の工夫を行うことで、サテライト室でも工作や集団遊び、おはなし会等を実施するなど、活動内容の充実を図り運営を行った。また、集団活動や館外活動等の多様な体験活動の機会を提供し、子どもたちの協調性や社会性を育んだ。</p> <p>のびすく宮城野では、ひろば事業における乳幼児の好奇心や発達段階に応じたプログラムの提供、理由を問わない一時預かり、地域の子育て関係機関や支援者と連携した相談事業や利用者支援事業の実施などを行い、子育て支援拠点としての役割を果たした。</p> <p>幅広いニーズに対応した様々なイベントも行っており、なかでも多胎児家庭向けの「ツインズサロン」、発達に不安をかかえる親子向けの「カンガルーひろば」は、子育て関係機関や民生委員児童委員などと連携することで地域の子育て支援体制の構築に貢献していることや、気軽に交流や相談ができる機会を提供しつつ必要に応じて専門機関へつなげていることが評価できる。</p>	S

四 その他特記事項（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項
<p>児童館とのびすくの一体的運営という特徴があり、日頃から乳幼児と小中学生が混在する環境だが、スペースや時間帯によって対象者を分けるなど、利用者が安全に楽しむことができるよう努めている。また、幅広い世代に向けた子育て支援情報の提供や、世代間での交流など、特徴を生かした運営を行っている点も評価できる。</p>

◎ 評価担当課（施設所管課）：こども若者局こども若者支援部児童クラブ事業推進課